

平成30年(2018年)3月期
第2四半期決算報告
(連結ベース)

2017年11月16日

東芝機械株式会社

東芝機械

（成形機、工作機械、その他）

国内製造販売会社 2社

（工作機械、その他） **不二精機製造所**
（その他） **東栄電機**

国内販売・サービス会社 他 3社

（成形機、その他） **東芝機械エンジニアリング**
（その他） **芝浦SEMTECK**
（その他） **芝浦産業**

赤い枠内は連結各社

（持分法適用会社） 1社

ニューフレアテクノロジー : 15.1%

（非連結子会社） **海外販売会社 9社**

海外製造会社 3社

（成形機）

TOSHIBA MACHINE (SHANGHAI) CO., LTD.

**TOSHIBA MACHINE MANUFACTURING
(THAILAND) CO., LTD.**

**TOSHIBA MACHINE (CHENNAI) PRIVATE
LIMITED**

海外販売・サービス会社 6社

（成形機、工作機械、その他）

SHANGHAI TOSHIBA MACHINE CO., LTD.

TOSHIBA MACHINE COMPANY, AMERICA

（成形機、工作機械）

TOSHIBA MACHINE (THAILAND) CO., LTD.

**TOSHIBA MACHINE SOUTH EAST ASIA
PTE.LTD.**

（成形機）

TOSHIBA MACHINE (SHENZHEN) CO., LTD.

TOSHIBA MACHINE HONG KONG LTD.

平成30年(2018年)3月期
第2四半期決算
(連結ベース)

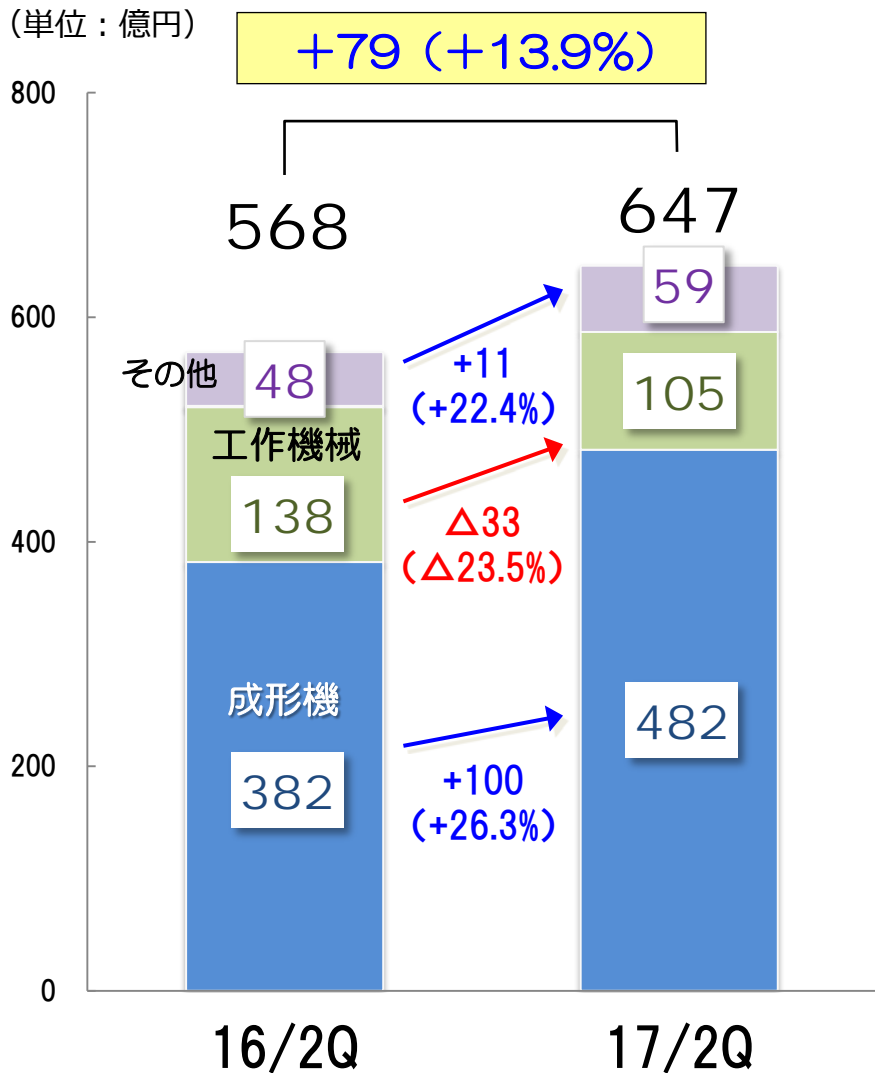
(単位:億円)

	2017年2Q (H29年2Q)	2016年2Q (H28年2Q)	増 減	2017年2Q予想 (2017/5/10公表値)
売 上 高	561	508	53	580
営 業 利 益	18 (3.1%)	14 (2.8%)	4 (+0.3%)	17 (2.9%)
経 常 利 益	38 (6.9%)	19 (3.8%)	19 (+3.1%)	18 (3.1%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	28 (5.0%)	14 (2.7%)	14 (+2.3%)	12 (2.1%)
受 注 高	647	568	79	620
為替レート(USD)	113 円	101 円		110 円

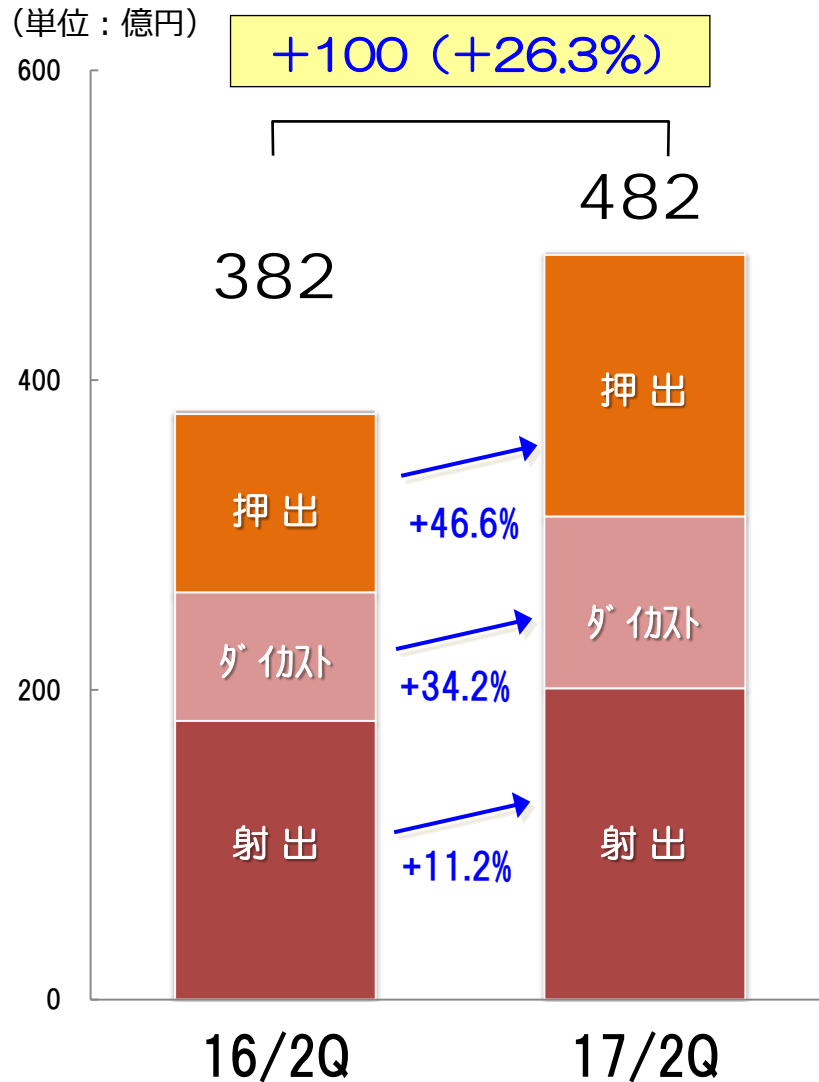
受注高(セグメント)

受注高(成形機内訳)

(単位：億円)



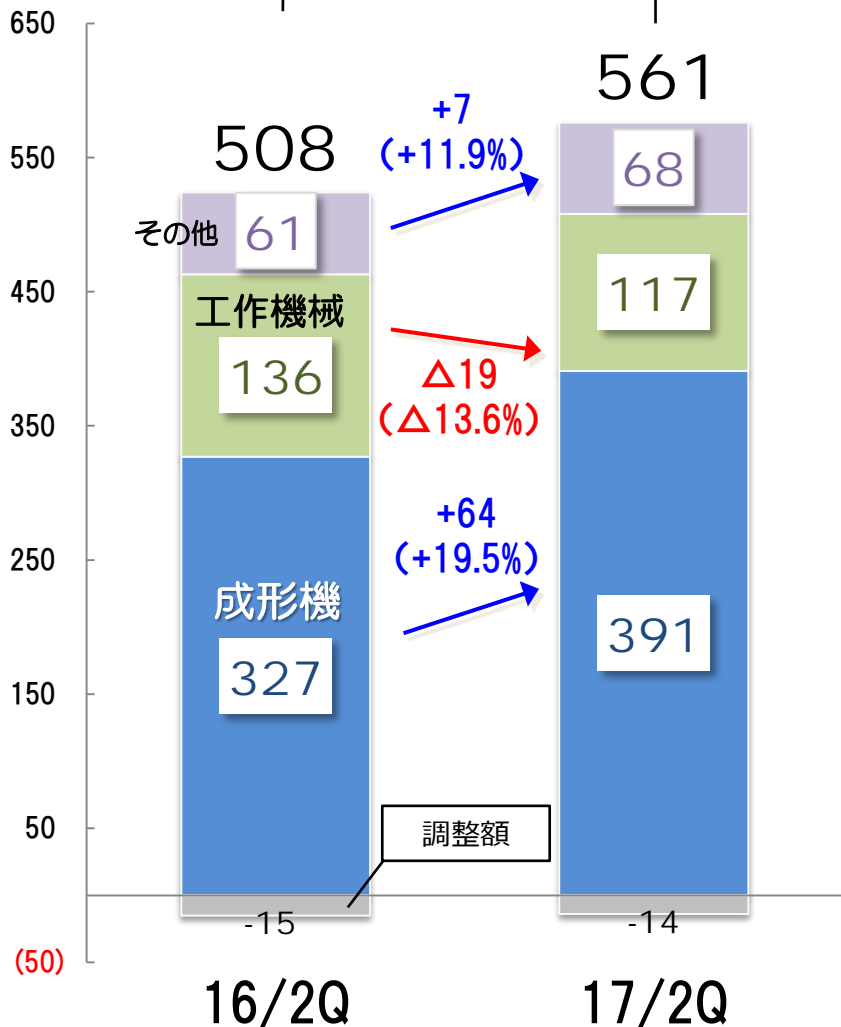
(単位：億円)



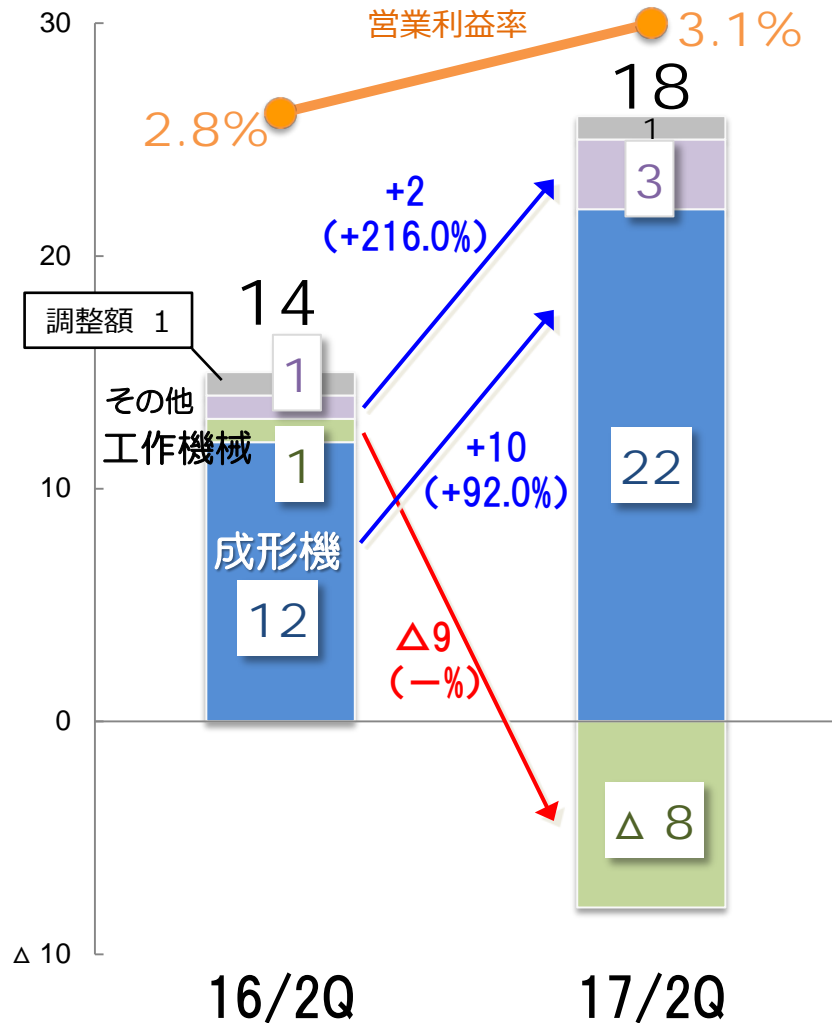
売上高(セグメント)

営業利益(セグメント)

(単位：億円)
※連結消去後



(単位：億円)
※連結消去後



(単位:億円)

(射出成形機・ダイカストマシン・押出成形機など)

	2017年2Q (H29年2Q)	2016年2Q (H28年2Q)	増減額	増減率
売上高	391	327	64	19.5%
営業利益	22	12	10	92.0%
利益率	5.7%	3.5%		

2017年2Q 業績要因分析

+

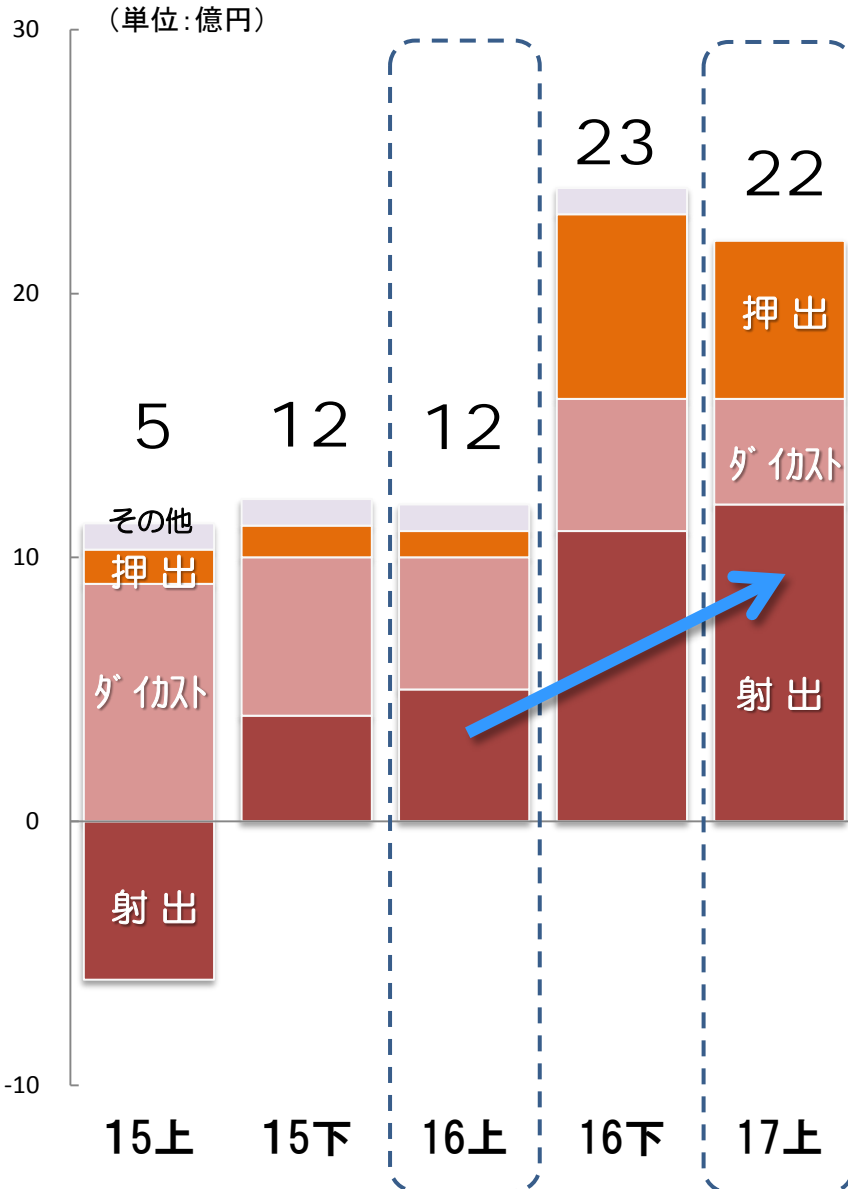
ポジティブ・ファクター

- 【射出】全地域で販売好調
- 【DC】国内・中国で需要回復基調
- 【押出】リチウムイオン電池向け需要拡大
- 原価低減施策の継続により利益率向上

-

ネガティブ・ファクター

- 【射出】北米向け競争激化により利益率低下
- 【DC】北米向け需要停滞
- 【押出】海外向け案件の価格競争進行



対前年同期比

《押出成形機》

◆ 売上規模の拡大

- リチウムイオン電池ラインの需要拡大

◆ 利益率の改善

- 複数台生産による初期費用低減、
調達CD効果発現

《ダイカスト》

◆ 売上規模の縮小

- 北米向け需要停滞

《射出成形機》

◆ 売上規模の拡大

- 欧州を除く全地域で規模拡大
- インド工場の整流化による生産能力増加

◆ 利益率の改善

- 中大型機の売上台数増加
- 主力機種のマイナーチェンジによるCD効果発現
- 各工場の生産整流化施策継続

(単位:億円)

(工作機械、精密加工機など)

	2017年2Q (H29年2Q)	2016年2Q (H28年2Q)	増減額	増減率
売上高	117	136	△ 19	△ 13.6%
営業利益	△ 8	1	△ 9	-
利益率	-6.5%	0.9%		

2017年2Q 業績要因分析

+

ポジティブ・ファクター

- 国内の自動車金型・航空機関連向け需要は堅調
- 国内・中国の光学金型関連向け需要は堅調

-

ネガティブ・ファクター

- 建機、重電向け需要の低迷
- 国際情勢不安定化による輸出案件の停滞
- 航空機仕様機の開発費先行注入による費用増加

(単位:億円)

(産業用ロボット、電子制御装置など)

	2017年2Q (H29年2Q)	2016年2Q (H28年2Q)	増減額	増減率
売上高	68	61	7	11.9%
営業利益	3	1	2	216.0%
利益率	3.7%	1.3%		

2017年2Q 業績要因分析

+

ポジティブ・ファクター

- 産業用ロボットは自動化需要により東アジア向けが堅調
- 転写システム案件の一部売上計上

-

ネガティブ・ファクター

- 調達部品の納入遅延による売上機会逸失
- 産業用ロボットメーカー間の競争激化

(単位: 億円)

為替の好転

円安影響による為替差益の増加

売上規模の増加

売上規模 +9

為替 +10

利益悪化 $\Delta 2$

経費 $\Delta 8$

その他収益 +14 持分法利益 $\Delta 4$

売上総利益率の好転 +1
 調達価格の高騰 $\Delta 2$
 御殿場旧棟除却損 $\Delta 1$

売上規模拡大による
 経費の増加 $\Delta 5$
 研究開発費増 $\Delta 2$

受取解約金 +13

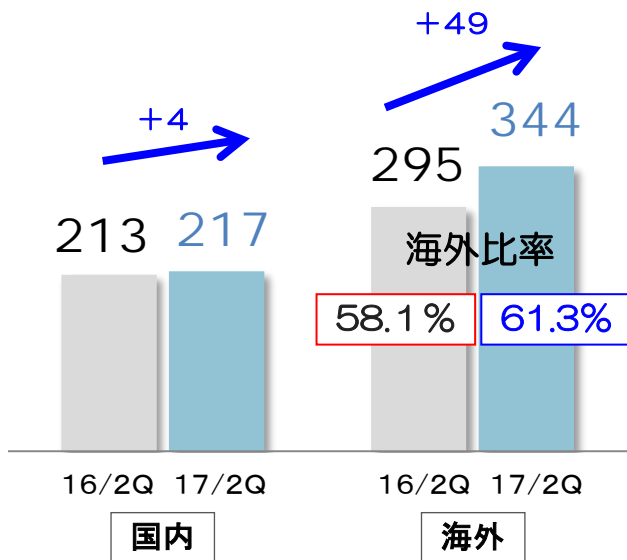
16/2Q
 経常利益
 19

+19
 (+101.7%)

17/2Q
 経常利益
 38

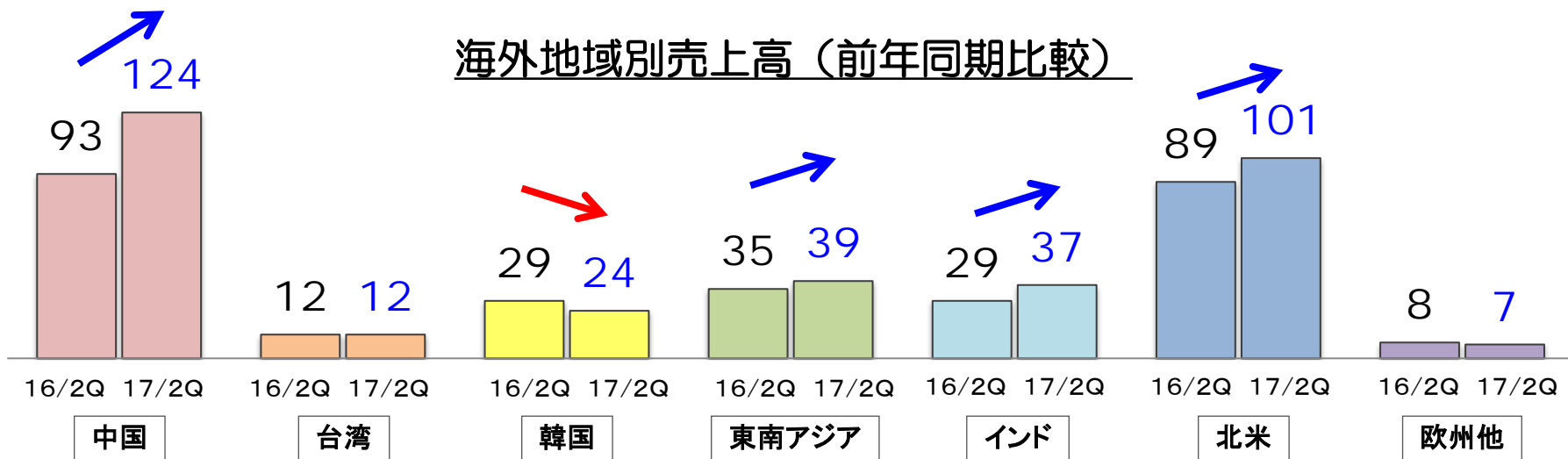
国内・海外売上高(前年同期比較)

(単位:億円)



- 国内: 射出成形機、ダイカストマシン増加
工作機械減少
- 中国: 射出成形機、押出成形機増加
工作機械減少
- 東南ア: 射出成形機増加
- インド: 射出成形機増加
- 北米: 射出成形機、工作機械増加、
ダイカストマシン減少

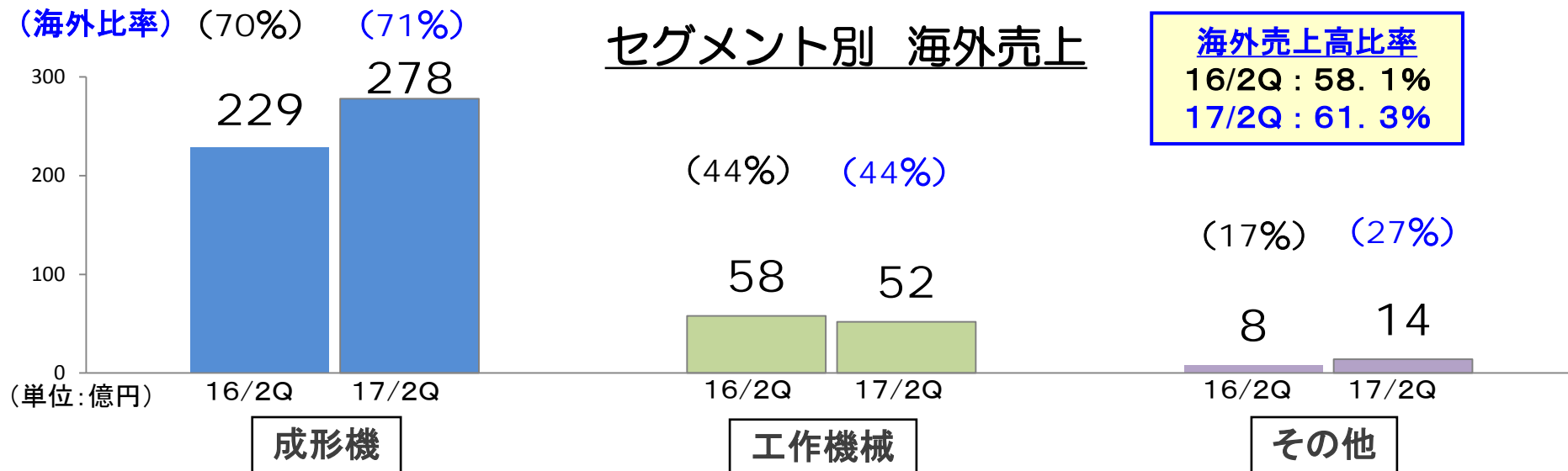
海外地域別売上高(前年同期比較)



海外向けの売上高・比率(セグメント別)

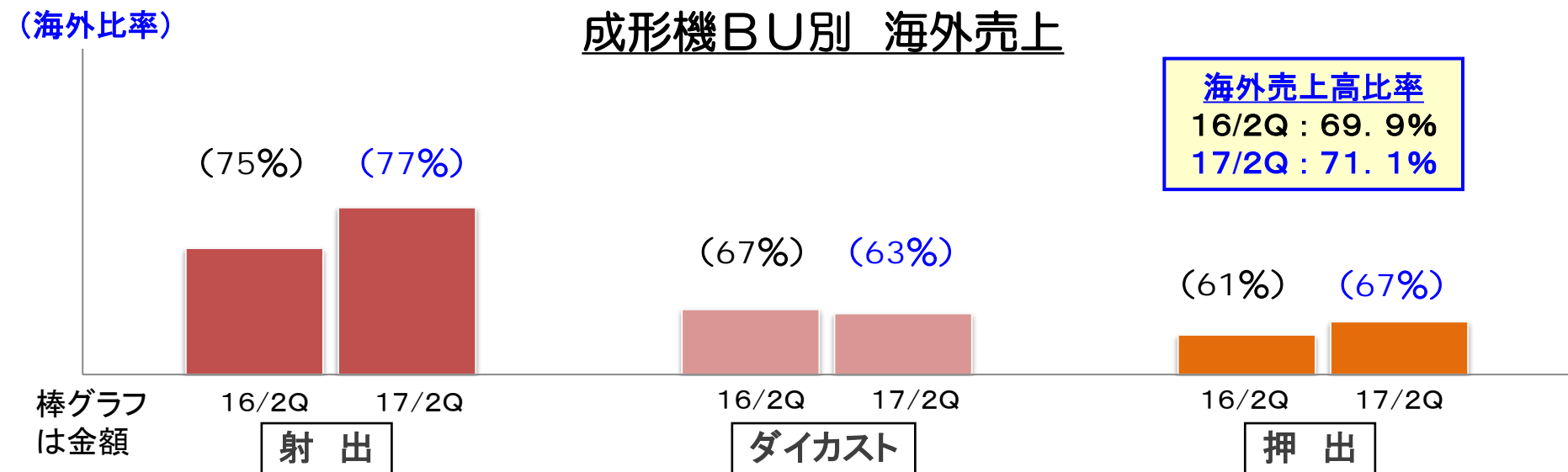
セグメント別 海外売上

海外売上高比率
16/2Q : 58.1%
17/2Q : 61.3%



成形機BU別 海外売上

海外売上高比率
16/2Q : 69.9%
17/2Q : 71.1%



1. セグメントの総括

成形機セグメント : 国内・北米・中国・東南アジア・インドで売上増加
工作機械セグメント : 売上は国内・アジアで減少、北米で増加
その他 : 中国で売上増加

2. 対処した施策

- 総原価低減
- 自動車、航空機、中国エレクトロニクス業界への注力

3. 結果

全社 : 増収増益
成形機セグメント : 増収増益
工作機械セグメント : 減収減益
その他 : 増収増益

	17年2Q	16年2Q
売上高営業利益率	3.1%	2.8%
※ ROE (当期純利益/自己資本)	7.1%	3.0%
※ ROA (当期純利益/総資本)	3.9%	1.8%
損益分岐点比率	80.2%	90.3%

※ 期首・期末の平均を使用

(単位:億円)

	2017年9月末	2016年度末	増減
現金同等物	341	301	40
売上債権	367	394	△27
棚卸資産	313	267	46
有形・無形固定資産	224	219	5
その他資産	240	224	16
資産計	1,485	1,405	80
買入債務	283	261	22
借入金(短期・長期)	146	149	△3
その他負債	254	224	30
負債計	683	634	49
株主資本	758	737	21
その他純資産	44	34	10
純資産計	802	771	31
負債・純資産計	1,485	1,405	80

貸借対照表概要

- 資産(前期比 80億円増加)
現金 40億円、棚卸 46億円増加
- 負債(前期比 49億円増加)
買入債務 22億円増加
- 純資産(前期比 31億円増加)
株主資本 21億円増加

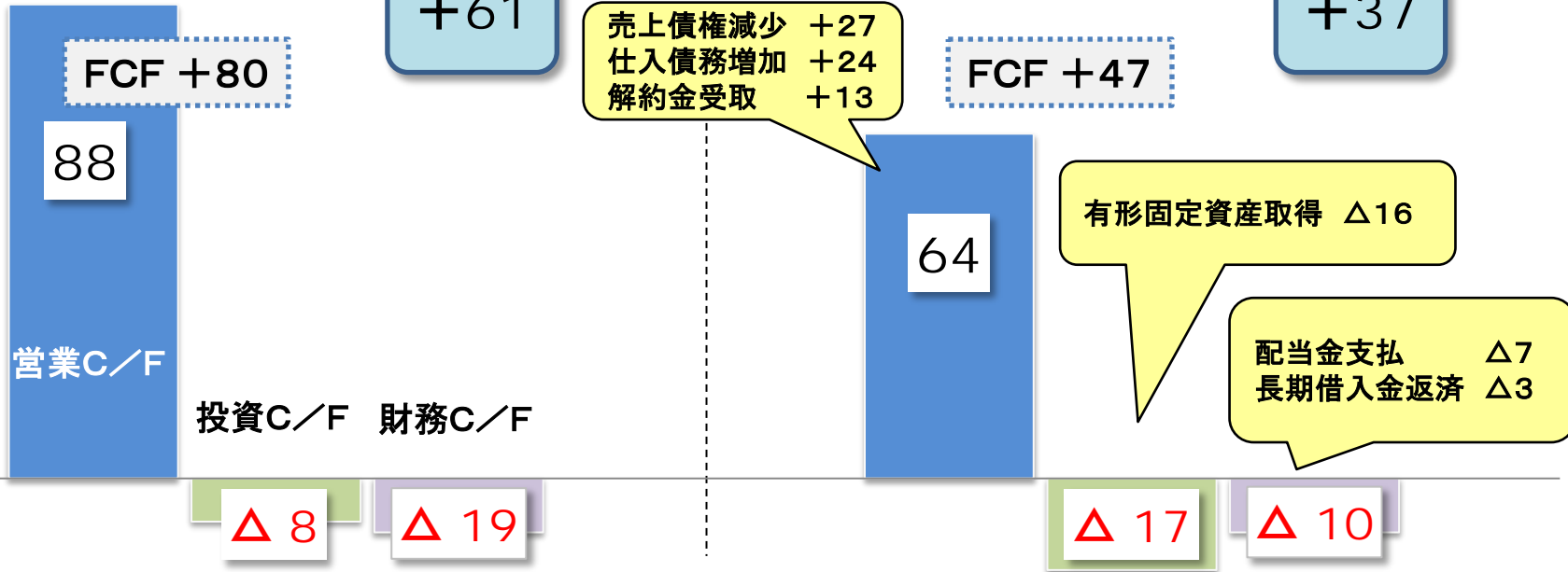
	17/9月末	17/3月末
自己資本比率	54.0%	54.9%
D/E比率	18.3%	19.3%
総資本回転率 ※	0.78 回転	0.75 回転

※ 期首・期末の平均を使用

(単位: 億円)

16/2Q

17/2Q



	16年2Q	17年2Q
現金及び同等物 期首残高	429	301
営業活動によるC/F	88	64
投資活動によるC/F	Δ 8	Δ 17
財務活動によるC/F	Δ 19	Δ 10
計	61	37
換算差額 他	Δ 18	3
現金及び同等物 期末残高	473	341

平成30年(2018年)3月期

業績予想 (連結ベース)

配当予想

1. 取り巻く外部環境

項目	ポジティブ・ファクター	ネガティブ・ファクター
成形機セグメント 射出成形機 ダイカストマシン 押出成形機	自動車・光学の伸長 自動車軽量化に対する需要増 リチウムイオン電池ラインの需要継続	東南アの回復鈍化 メキシコ需要の停滞継続 価格競争激化
工作機械セグメント	工作機械業界の活況 自動車・航空機の伸長	中大型機の需要回復遅れ 国際情勢不安定化による輸出案件の停滞
全般的リスク		急激な為替変動 調達品の納期遅延

2. 概要

(1) 施策

- 事業収益性向上 : 総原価の低減・収益確保、最適調達網の構築
- 経営体質強化 : 国内外工場の効率化、拠点の最適化
- ブランド力強化 : 市場ニーズにあった新商品の創出、独自ブランドの醸成

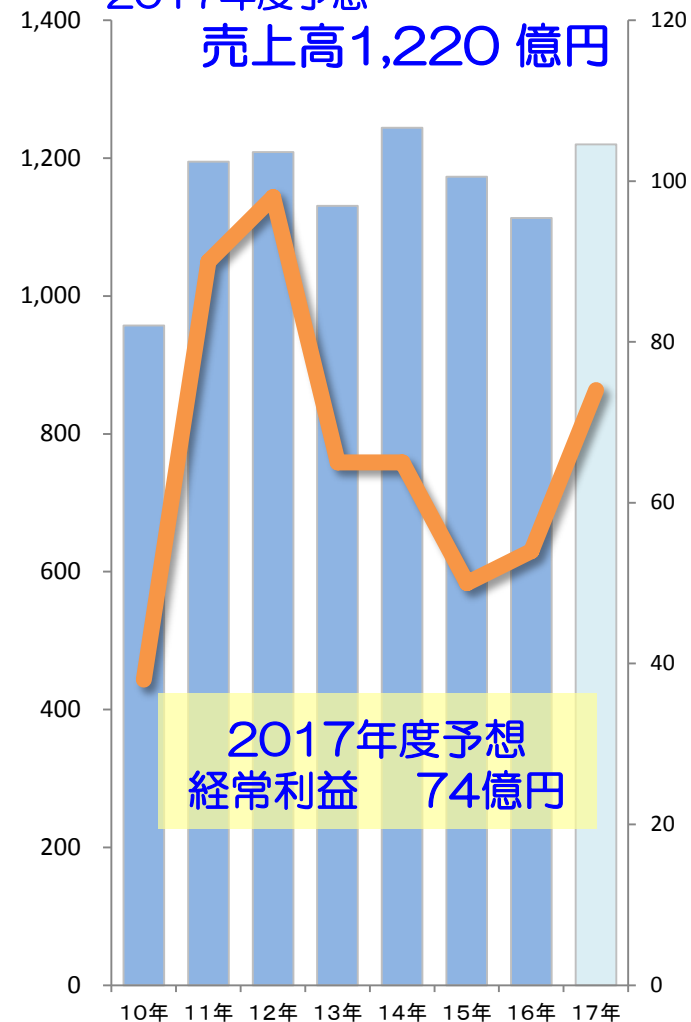
(2) 業績見込(前期比)

- 売上高 : 成形機・その他セグメントは増収、工作機械セグメントは減収
- 営業利益 : 伸長を見込む

(単位:億円)

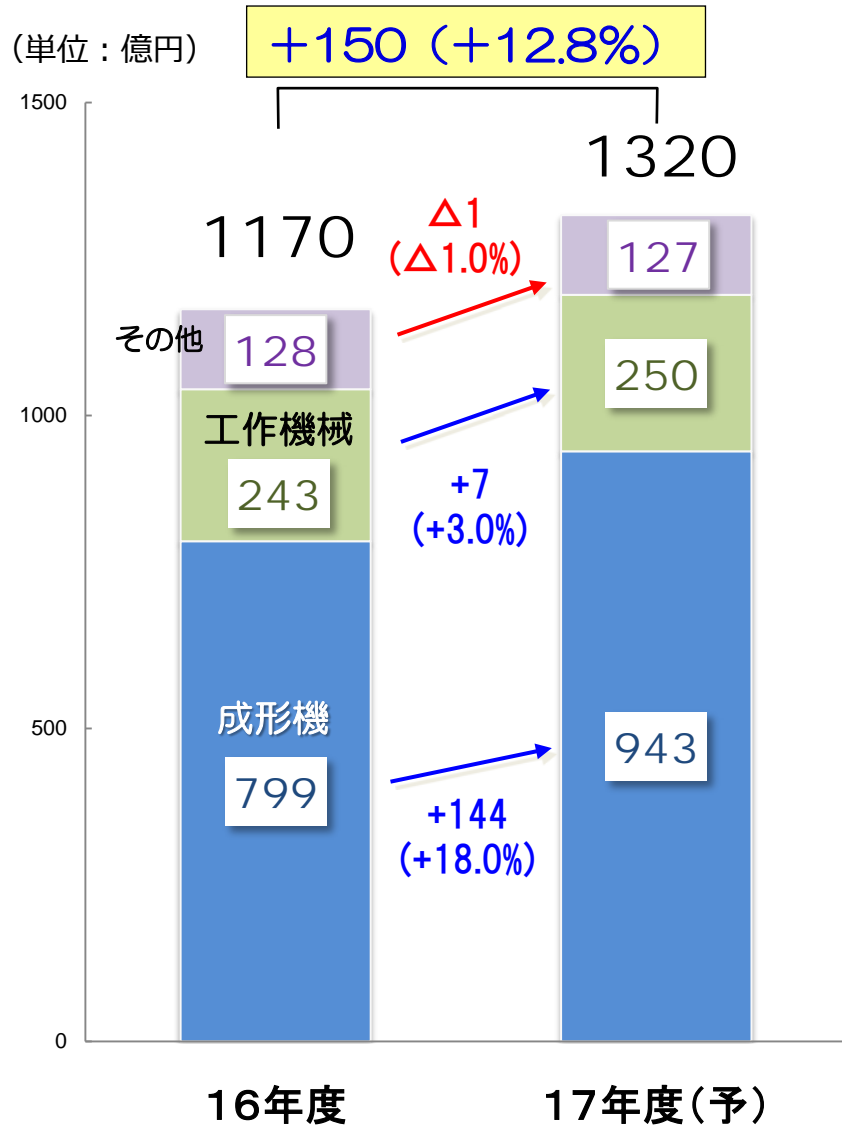
売上高 経常利益

2017年度予想
売上高1,220 億円

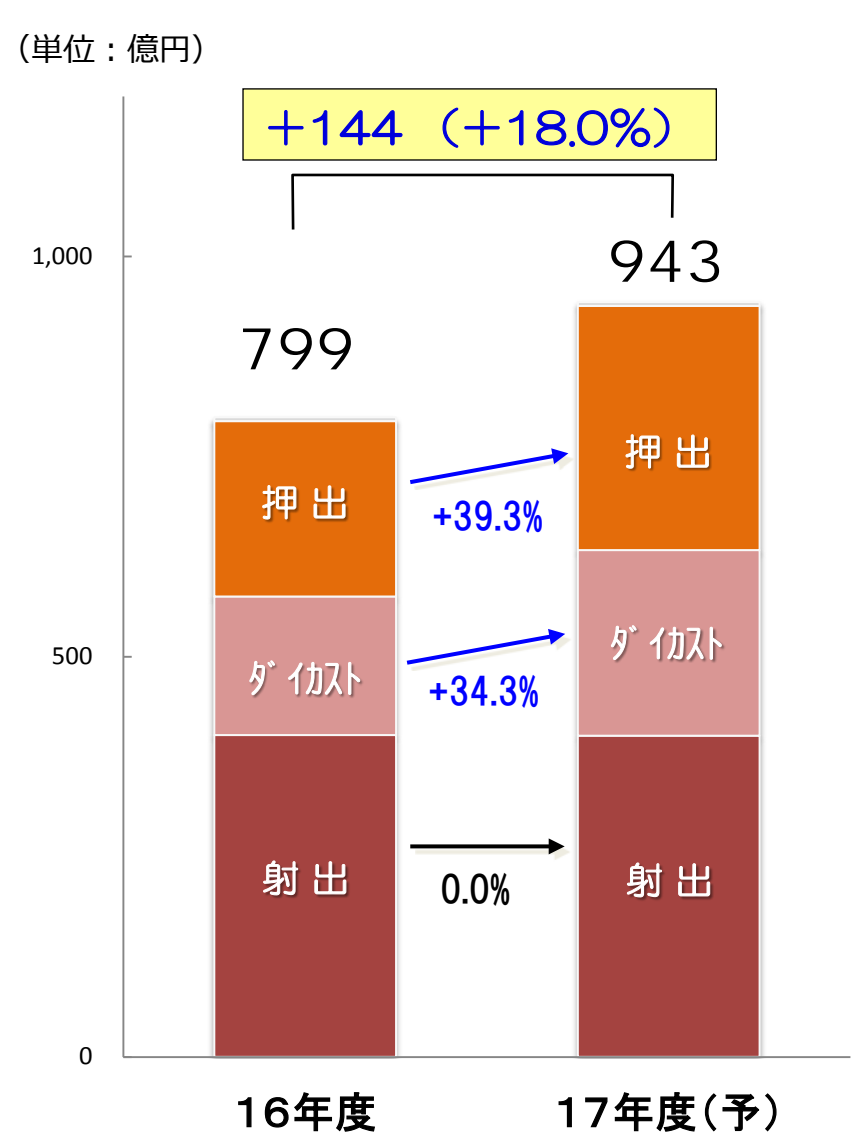


	2017年度 予想	2016年度 実績	増 減	2017年度予想 (2017/5/10公表値)
売上高	1,220	1,113	107	1,200
営業利益	54 (4.4%)	45 (4.0%)	9 (+0.4%)	52 (4.3%)
経常利益	74 (6.1%)	54 (4.9%)	20 (+1.2%)	58 (4.8%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	53 (4.3%)	18 (1.6%)	35 (+2.7%)	42 (3.5%)
受注高	1,320	1,170	150	1,300
為替レート(USD)	110 円	112 円		110 円

受注高(セグメント)



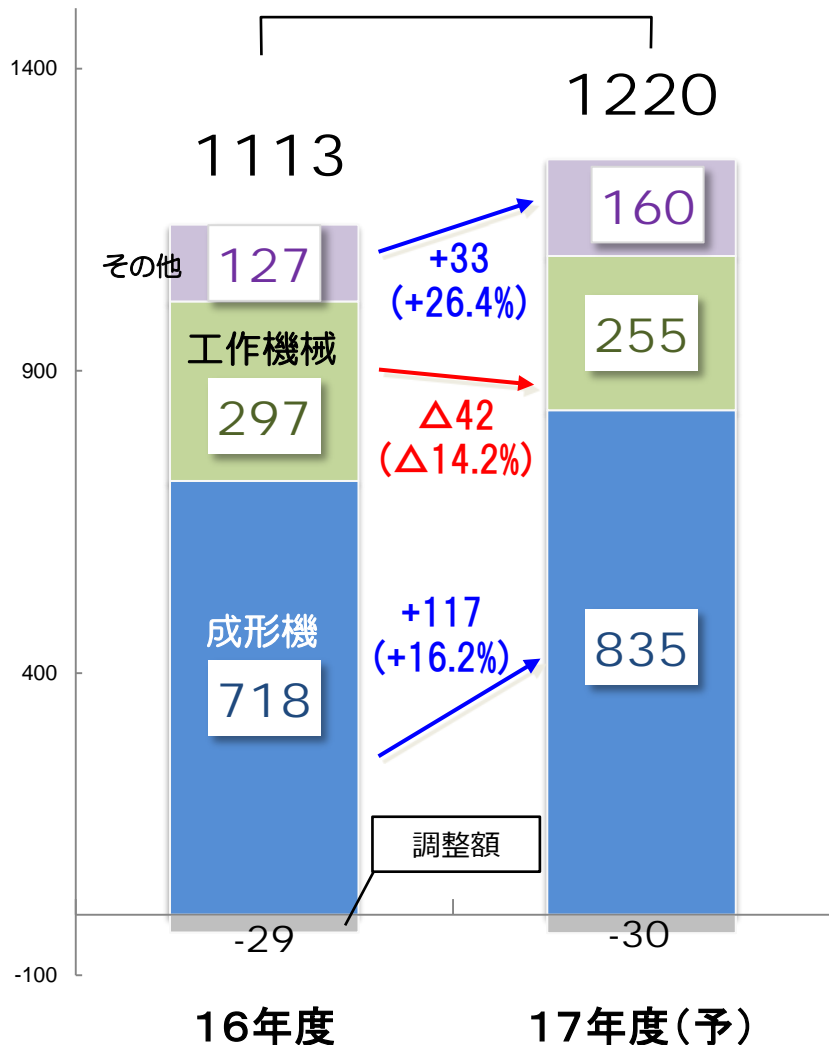
受注高(成形機内訳)



売上高(セグメント)

(単位：億円)
※連結消去後

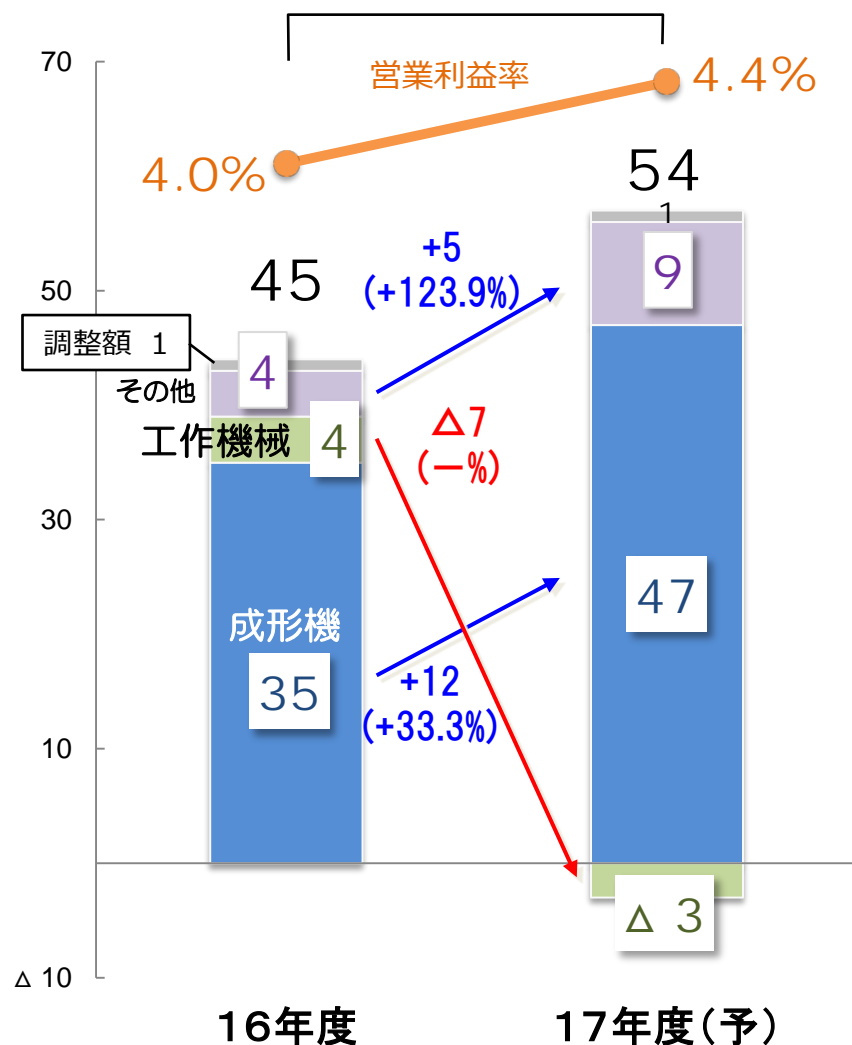
+107 (+9.6%)



営業利益(セグメント)

(単位：億円)
※連結消去後

+9 (+20.7%)



(単位:億円)

(射出成形機・ダイカストマシン・押出成形機など)

	2017年度 (H29年度)	2016年度 (H28年度)	増減額	増減率
売上高	835	718	117	16.2%
営業利益	47	35	12	33.3%
利益率	5.6%	4.9%		

2017年度 業績要因分析

+

ポジティブ・ファクター

- 【射出】インド・北米市場へ油圧中大型機投入
- 【射出】インド工場エリア拡張による生産能力増強
- 【射出】生産効率向上および最適地調達によるコスト低減
- 【DC】中国市場での中大型機需要拡大
- 【押出】リチウムイオン電池の需要拡大

-

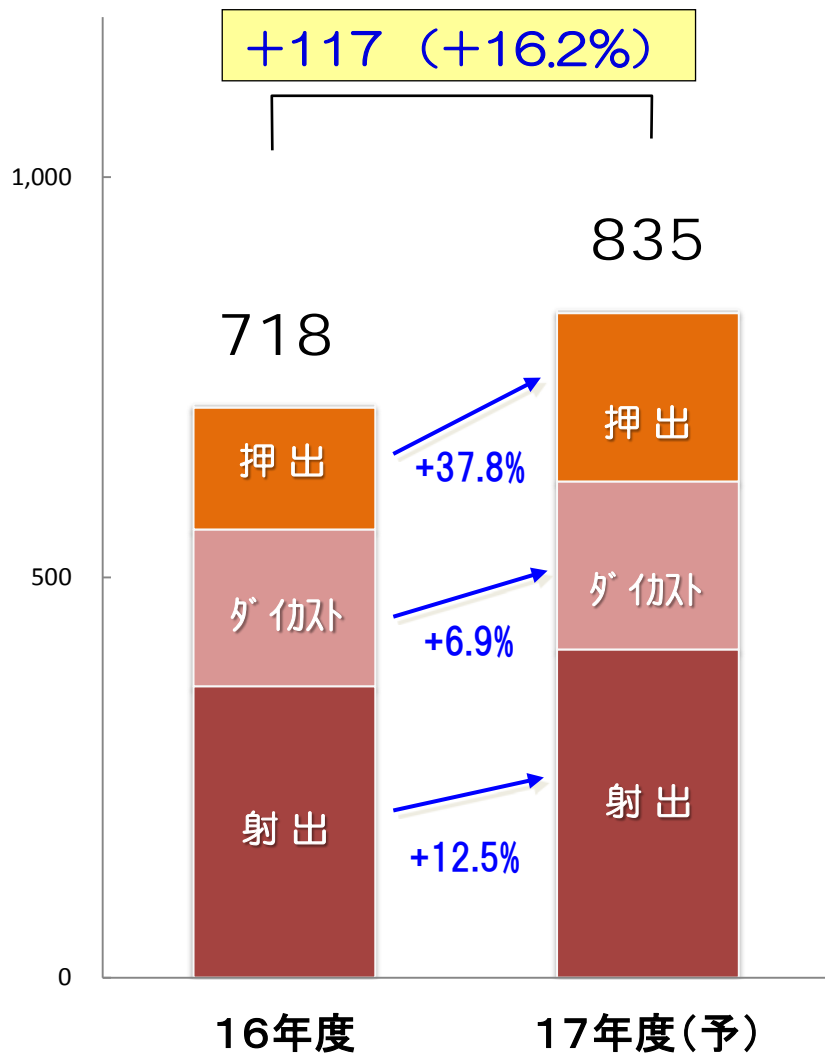
ネガティブ・ファクター

- 【射出・DC】米国政策転換による自動車メーカーのメキシコ投資動向不透明化
- 【押出】海外向け案件の価格競争進行

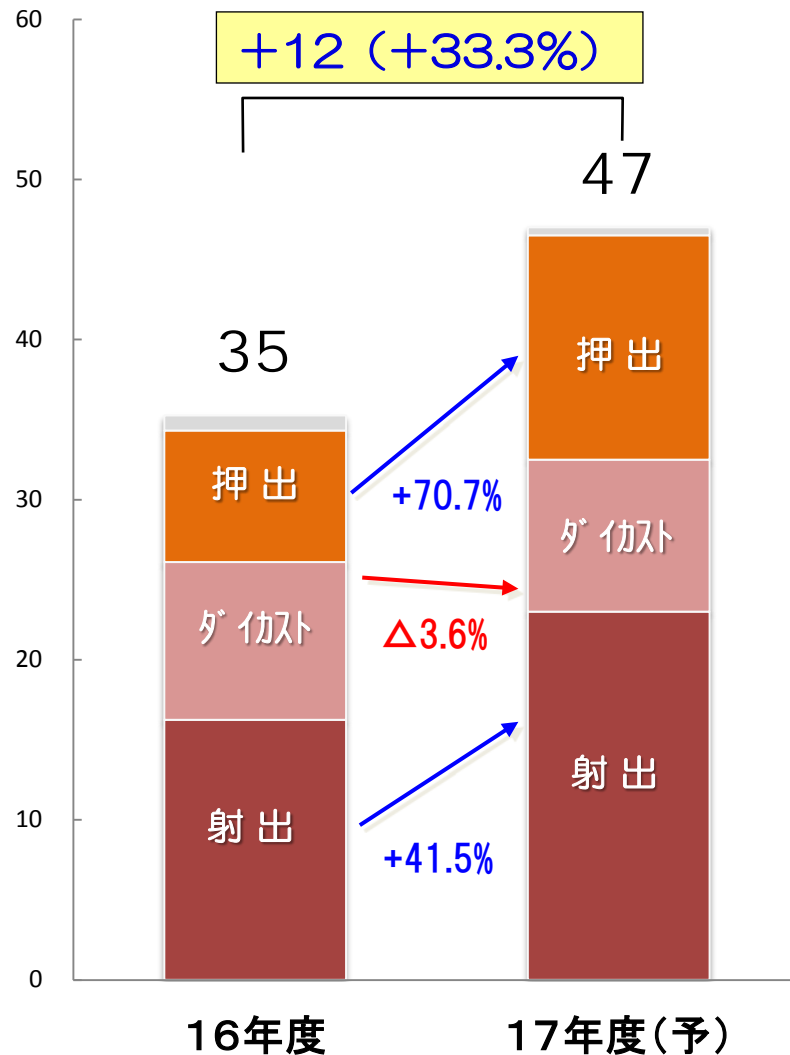
売上高(成形機セグメント)

営業利益(成形機セグメント)

(単位:億円)



(単位:億円)



(単位:億円)

(工作機械、精密加工機など)

	2017年度 (H29年度)	2016年度 (H28年度)	増減額	増減率
売上高	255	297	△ 42	△ 14.2%
営業利益	△ 3	4	△ 7	—
利益率	△ 1.2%	1.4%		

2017年度 業績要因分析

+

ポジティブ・ファクター

- 自動車金型・航空機関連の伸長
- 中国向け光学金型関連の堅調維持
- 射出成形機の原価低減施策の横展開による利益率改善

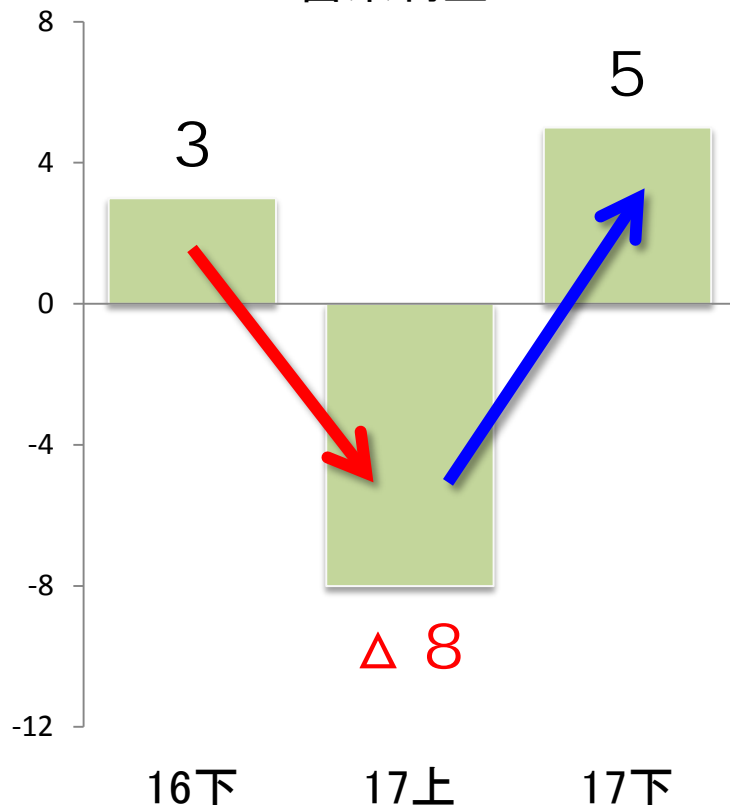
-

ネガティブ・ファクター

- 国際情勢不安定化による輸出案件の停滞
- 主要調達部品の長納期化による生産遅延
- 北米資源関連の需要停滞継続

(単位: 億円)

営業利益



売上高 (億円)	16下	17上	17下
売上高	<u>161</u>	<u>117</u>	<u>138</u>

《17上の利益悪化要因 (対16下)》

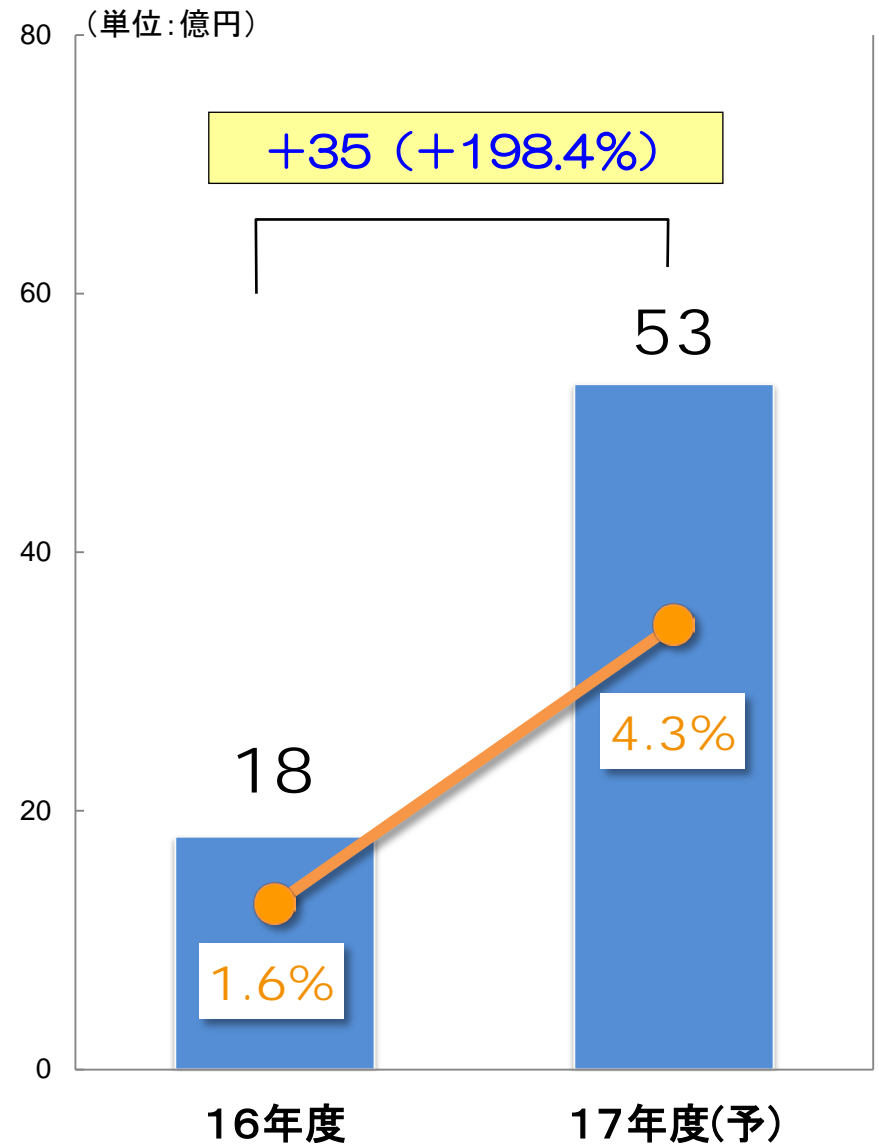
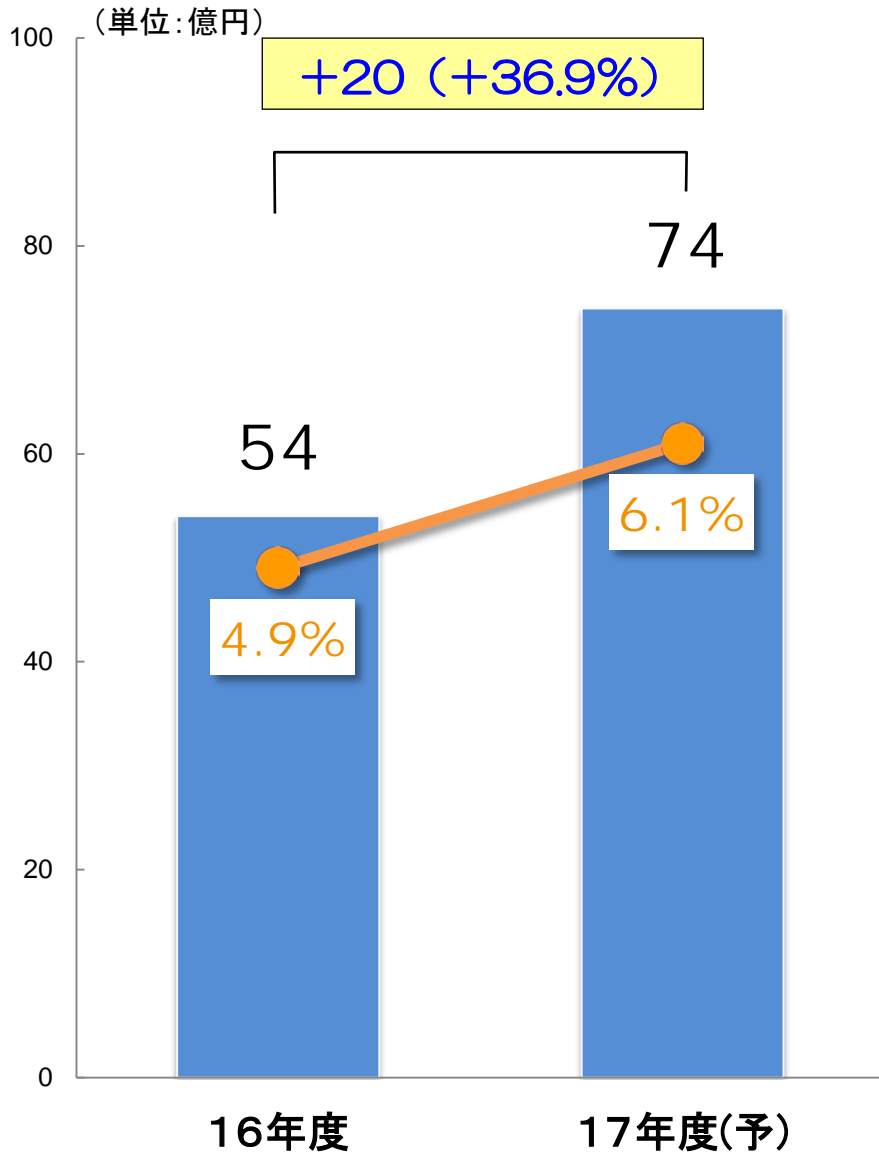
- '15後半～'16前半の工作機械業界での受注減速を受け、売上が発現する17上売上の大幅減少
- 売上規模減少による操業悪化
- 航空機仕様機の開発費先行注入

《17下の利益好転要因 (対17上)》

- 17上から期ズレを取り込み、精密加工機の売上大幅増加
- 国内売上の規模増加
- 売上規模増加による操業の改善
- 先行注入していた開発費の回収

経常利益

親会社株主に帰属する 当期純利益



配当金の決定に関する方針

当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。

当第2四半期末の配当金につきましては、当第2四半期までの業績を勘案し、平成29年5月10日に公表しました前回予想から1円増額し、1株当たり7円とさせていただくことにいたしました。

また、期末配当金の予想につきましても、前回予想から1円増額し、1株当たり7円に修正いたしました。これにより、当期の年間配当金は、1株当たり14円となり、前期(平成29年3月期)実績から2円増配の予定となります。

(配当の状況)

	第2四半期末	期 末	年 間	配当性向 (連結)
2016年3月期	6 円 00 銭	6 円 00 銭	12 円 00 銭	38. 0%
2017年3月期	6 円 00 銭	6 円 00 銭	12 円 00 銭	101. 1%
2018年3月期 (予想)	7 円 00 銭	7 円 00 銭	14 円 00 銭	31. 9%

以 上

本資料に記載している将来の当社業績に関する見通しは、現時点での把握可能な情報に基づいて作成したものです。

実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向により、これらの業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

お問い合わせ先

東芝機械株式会社 総務部

TEL : 055-926-5141

FAX : 055-925-6501

URL : <http://www.toshiba-machine.co.jp>